

編集委員が選んだ本

『ファスト風土化する日本』 郊外化とその病理

三浦展著、洋泉社新書、2004年9月、760円
小学生が級友を殺す、中学生が幼児を突き落とす。地方で次々と起こる奇妙な事件。大都市の情報や商品は瞬時に地方に届いて地域社会を破壊し、日本中が同じジャンク文化に犯されていく。犯罪の起きた現地を取材してその状況を、著者は「ファスト風土化」と呼ぶ。

『ニート』 フリーターでもなく、失業者でもなく

玄田有史・曲沼美恵著、幻冬舎、2004年7月、1500円
話題の本。私たち教師が子どもたちのコミュニケーション能力に問題が生じていると感じ始めて30年以上が過ぎた。次におきたのは知的なレベルの低下だった。そしていまや生きる力の低下が顕著になっている。「働くために動き出すことができない」若者が、80万人もいるという現状を報告する。怠けているのではない。準備なしで現実初めて直面した若者の自信喪失の状況は、果たして若者だけの責任なのだろうか、と著者は問う。

『「いい先生」は誰が決めるの?』

勝野正章・小島優生・新堀義昭・山田功著、つなん出版、2004年7月、630円

計画されている公務員制度改革は、人事考課制度の導入と給与・処遇の差別化を伴う。2003年12月5日、ILOは文科省と全教に「勧告」を送付し、両者の対話の実施と情報提供を求め、適切な時期に検討されることになった。これはILO・ユネスコ『教員の地位に関する勧告』（1966年採択）が生き続けている証左である。今回の勧告を基に私たちは、「指導力不足教員」対策や教員評価制度が必要と思う人々とも、「適正手続きは必要」「評価の客観性」「本人開示」「苦情処理」「教員評価は特別困難」などで話し合えるはずである。対話資料に最適。

『すぐに役立つ元気の出る労働相談』

前澤檀著、さとう出版、2004年3月、1000円
学習後の高1生の労働組合に対する意見は、「嫌だと言って会社を辞めても、他の会社でも大変な状況があるかもしれない。『自分がしっかりしていれば』といっても実効性はない。1人で何かやるのは心細いし、集団のほうが使用者と対等な立場になれる。」「労組に入っていることで集中的に目をつけられるのは嫌だし、組合費を払っても問題解決できなければお金がもったいない」などに分かれた。この著書はこれまでの事例を基に、労働法をどう武器として使えばいいかを具体的に紹介している。労働現場を家族や教師も問い直すことが必要である。

『歴史学ってなんだ?』

小田中直樹著、PHP新書、2004年1月、714円
「歴史って学ぶ意味があるんですか?」歴史の教師なら一度は生徒から聞かれる問いである。「史実」とは何か、歴史学は社会の役に立つか、そして歴史学とは何か。この3つの「大問題」を、歴史小説と歴史学の違いや、従軍慰安婦論争、歴史教科書の記述のあり方など、身近な問題に置き換えて、なお且つ高校生でも十分に読みこなすことの出来る、わかりやすい文体で叙述している。4月の新学期、歴史を学ぶ生徒たちに「歴史入門」として読ませたい一冊である。

『資料が語る戦時下の暮らし』

羽島知之編著、麻布プロデュース、2004年9月、3360円
戦時下の様子を語る実物教材や資料はたくさんあるが、本誌のように広範囲にわたる、体系的な資料集は他にはない。2000年に横浜に開館した、「日本新聞博物館(ニュースパーク)」の基礎資料ともなった羽島コレクションの一部であるが、新聞に限らず、雑誌やポスター、広告ビラ、絵本や漫画、子どものおもちゃにいたるまで、紙に関わる資料が網羅されている。戦時下の生々しい雰囲気伝えるこれらの資料は全てカラー、平和教育の教材としては是非活用したい。

『スウェーデンはどう老後の安心を生み出したのか?』

竹崎孜著、あけび書房、2004年7月、1890円
将来に希望がもてないと答える若者が多く、お寒い国民年金保険料納付率…という国に住む私は、投票率が80%を超え、国民の多くが「将来の年金生活に不安なし」と答えるスウェーデンのような“当たり前”の社会がどうしてこの国でできないのか、考えてしまう。スウェーデンも一朝一夕に今の制度をつくったのではない。「後追いではなく先行的に」「公的主義を貫く」といった点がとくに印象に残った。

『「問い」から始まる仏教』

南直哉著、佼成出版社、2004年1月、1470円
「自己とは何か」「死んだらどこへいくのか」などの問いに対し、「答えられない」と著者は言う。その「わからなさ」という苦を直視して、なおかつ充実した生を求めていくのが仏教だと語る。冒頭の問いに対し、「絶対神」をもって多くの宗教についていけない私などには、誠実かつラジカルな思惟と感じられた。その他示唆に富む指摘が多く、煩惱多き身で改めて宗教の意義について考えさせられた。

定価 210円(本体200円) 編修・発行 実教出版株式会社 代表者 島根正幸
2005年2月15日 印刷 発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
2005年2月20日 発行 Tel.03-3238-7777 <http://www.jikkyo.co.jp/>